

## ウィンブルドン・テニストーナメント 2015 観戦記

原田義則 (3組)

6/30-7/6の一週間、全英オープンテニストーナメント(@ウィンブルドン)の観戦に行ってきました。

テニスの4大トーナメント[全仏(ローラン・ギャロス)、全英(ウィンブルドン)、全米、全豪]を観戦するというのが昔からの夢で、一昨年の全仏オープンテニストーナメント(パリ)、昨年の全豪オープンテニストーナメント(メルボルン)と全米オープンテニストーナメント(ニューヨーク)に続き、今回は4回目にして締め括りの観戦です。これで「グランドスラム」を達成しました。今回不幸にして日本のエース錦織圭は怪我のためリタイアして仕舞い、応援することは出来ませんでした。男女の3回戦の内、7試合を観戦しました。

5日目のセンターコートでは男子世界ランキング1位のN.ジョコビッチ(セルビア、今年の優勝者)が強力なサーブを誇るB.トミック(豪)を一蹴しましたが、今回の女王S.ウィリアムス(米)は地元イギリスの期待を一身に集め、圧倒的な声援を受けるH.ワトソン(英)に完全アウェイの中で、何とかギリギリ勝つことが出来ました。

また6日目のNo.1コートではフランス勢同士の対決となったG.シモンとG.モンフィスの一戦で、正統派のG.シモンが、高過ぎる身体能力ゆえに時に観客を沸かせるトリッキーな動きを見せる天才G.モンフィスをフルセットで下しました。元世界No.1で人気の美人プレイヤーのC.ウオズニアッキ(デンマーク)はC.ジョルジ(伊)に完勝。昨年の全米で錦織を下しグランドスラムを初制覇したM.チリッチ(クロアチア)はビッグサーバーのJ.イズナー(米)を大接戦の末、下すなど、何れの試合も(凄過ぎて自分自身のテニス技術向上には何の足しにもなりませんでしたが)極めて面白いものでした。

この他、日本人選手を含む17歳以下のジュニア選手達の試合も座席指定の無いコートで何試合か見ましたが、センターコートやNo.1コートより遥かに近くで観られますので、その迫力に大いに驚かされました。

全仏、全豪、全米、夫々に特徴があり、皆素晴らしいのですが、矢張り全英(ウィンブルドン)は最高です。芝生は正に目の細かい「緑のカーペット」で、素晴らしく手入れが行き届いており、とても植物とは思えない出来栄です。それぞれのミッションに応じた制服(色は紫と深緑のウィンブルドンカラーで統一)を身に纏い、良くトレーニングされたスタッフの数も多く、ホスピタリティーも万全で、非常に心地良く試合を楽しむことが出来ました。

7月1日はロンドンも36℃を越す「史上最高」の気温に達し、地下鉄の中は大変でしたが、「不味い」と言われていた食べ物も全て美味しく、楽しい一週間を過ごすことが出来ました。テニスを楽しめない方々にも是非一度ウィンブルドンを訪ねて見ることをお勧めします(チケット入手は些か困難ですが)。

10月には第14回目となる同期テニスの会(会長:布施修一郎/6組)が軽井沢で開催されます。4大トーナメント観戦を通じて十分積んできたイメージトレーニングの成果が出れば良いのですが。

撮って来た写真の一部を添付します。

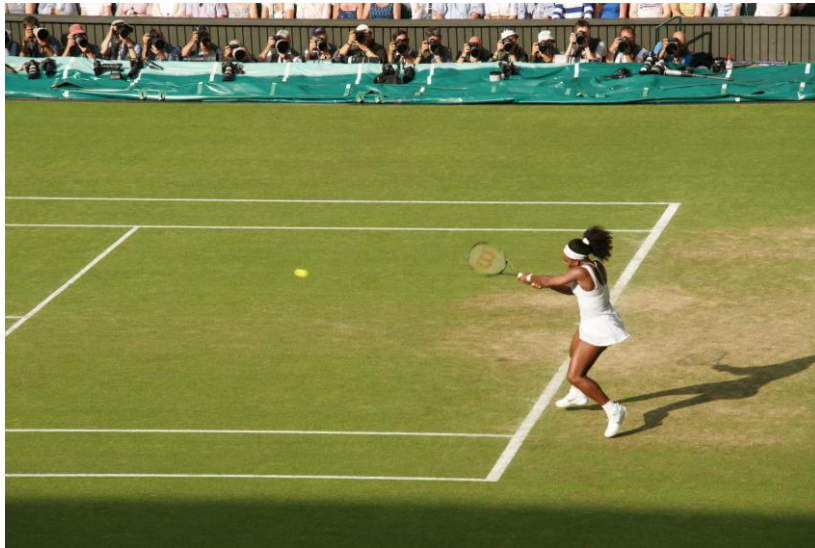
(2015/7/13 記)



センターコート外観



↑練習するジョコビッチ  
勝利したジョコビッチ→



セレナ・ウィリアムスの試合風景



H.ワトソンに勝利したセレナ